



## 認知症ケア加算の算定導入に向けて

副看護部長 長井 砂都美

認知症ケア加算は、身体疾患のために入院した認知症高齢者に対する対応力とケアの質向上を図るため、病棟での取り組みや、多職種チームによる介入が評価されるものです。当院ではすべての病棟が対象となります。「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」ランクⅢ以上に該当する患者さんが対象となります。現在も認知症の患者さんが入院されています。認知症の方に対して見守る体制だけではなく、必要な「かかわり」を持つことが求められています。そのために、認知症患者のアセスメントや看護方法等に係る適切な研修を受けた看護師が各病棟複数名配置され、認知症ケアに関するマニュアルを作成し活用していかなければなりません。今後研修に参加されたスタッフを中心に、体制を整えていきたいと思っています。

## 「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」研修に参加して

3階西病棟 中野

7月8、9日に「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」の研修に参加させて頂きました。日本の現状は30人に1人が65歳以上で6.5人に1人が認知症です。国の取り組みとして認知症施策推進総合戦略があり、基本的な考え方として認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すとしています。今後いろいろな視点から認知症高齢者をサポートしていく必要があると考えます。今回の研修で認知症ケア加算2の施設基準を取るために研修を受講した他のスタッフと共に今後マニュアル作成や看護計画の見直しなどを行い、スタッフへの伝達や指導を行っていかうと思います。

## 新人看護師ローテーション研修終了



4月から始まったローテーション研修も8月末で終了し、配属部署での勤務が始まりました。新人看護師は1ないし2名ずつのローテーションで不安も大きかったと思いますが、各部署のプリセプターさんをはじめ、スタッフの熱心な指導で、看護技術の向上や社会人としての自覚、責任の重さを感じ、精神的にもひとまわり大きく成長しました。独り立ちまで頑張ってください。みんなが応援しています。（小牧）

### 4階東病棟 久保

ローテーション研修を終えて、最初は不安でしたが、先輩方のご指導のもと研修を無事終えることが出来ました。様々な部署で研修をさせていただき、その部署でしかできない多くの事を学ぶことができました。配属は4階東病棟になりました。研修で学んだことを活かし、日々学習して、早く一人前になれるように頑張っていきたいと思っています。



### 手術室 堀田

ローテーション研修では、プリセプター・エルダーの方のみではなく、先輩看護師のみなさん・他部署の先輩方にも教えていただきながら、毎日学ぶことができました。不慣れな点・未熟な面も多く、先輩方には大変ご迷惑・ご心配をおかけしたと思います。次のローテーション先に行っても、廊下ですれ違う際など挨拶や声をかけていただき大変励みになりました。手術室への配属が決定し、新人ローテーションでの経験を「継続看護」という観点で活かしていきたいと思っています。これからも日々、一生懸命に努力をしていきたいと思っています。

# 院内研修報告

## 7/28 スターティング研修 医療安全研修「KYT」

講師 城ノ下師長

4階西病棟 土田

私達は3人ずつのグループに分かれ、危険な場面をベッド周囲に設定しました。一人だけでは気付けない事もあり、様々な視点から観察をすることで気付くことや、新人だけでは気付かなかった点を先輩看護師である教育委員の方よりアドバイスして頂きました。

今回の研修では「それは危険な事ではないか」ということに気付くためにも基本をしっかりと理解する必要がある事を学びました。今後も感性を磨いたり、学習を続けていきたいと思います。



患者事例から危険場面を設定し、3名ずつの2グループに分かれて互いに意見を述べてもらいました。各部署をローテーションし、多くのことを学んでいると思います。転倒予防について、安全のためという色々としすぎることは、拘束に繋がるのでは？という意見がありました。日々の経験を活かし、危険リスク因子についてアセスメントし、ディスカッションしている姿に成長を感じました。各グループで互いに意見交換することで、多くの気付きもあったと思います。この気付きが、臨床の場でも活かせることを期待します。

手術室 田代

## 8/8 普通救命救急講座

回復リハビリ病棟 猿楽

救急隊の方から、胸骨圧迫・人工呼吸の正しい方法やAEDの使用方法など救命救急の一連の流れをわかりやすく丁寧に指導していただきました。数年前にBLSを受講しわかっているつもりでいましたが、実際に行ってみることで手技の確認をする事ができ、改めて学ぶ機会となりました。

急変対応・CPRの質を保つためにも、病棟での定期的な救急シミュレーションを実施する重要性を感じました。また普通救命救急講座も定期的に受講していきたいと思います。





# 院外研修報告



## 「重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修」に参加して

4 階東病棟 皮籠石

すでに皆さんも知っているように、今年度より看護必要度に新しく「救急車の搬送」や「C項目」の追加がありました。また評価者は、以前看護師だけであったのが、他職種（薬剤師・リハビリスタッフ・栄養士など、院内の必要度研修を受けた方が対象）が含まれるようになりました。STの口腔ケアやリハビリでの歩行介助など様々なところで他職種と連携して評価をしていく事が大事になってきます。

看護必要度の評価は診療報酬を受け取る為に適切な記録と正しい評価ができるように学習を重ねていきましょう。



## 「クリニカルパス講座・大会」に参加して

3 階東病棟 瀬戸口

2016年よりパス認定士制度が開始され、専門性を求められるようになりました。熊本済生会病院はこれまで全国の学会発表も多く、パスの専任看護師も配属されています。クリニカルパス(CP)をどう考えるのか、患者説明ツール・予定表という考えからチーム医療の診療計画へ。そして集積されたデータを使用してバリエーション分析・記録の効率化を図っていく事が求められます。CPを「診療支援システム」という言葉で説明すると受け入れやすいのではないかと話されていたのが印象的でした。当院も60%以上が予定外入院であり、患者・スタッフ共に安全にストレスを少なくし、診療をしていくためにCPの定期的な見直しと必要なCPの作成は継続していく必要があると感じました。



## 「スピリチュアル研修Aコース（入門コース）」を受講して

3 階東病棟 轟原

以前より終末期に関心がありましたが、今回初めて研修に参加し、これまで私自身の考えや思いで患者様と接してきたことを感じました。患者様の思いを傾聴するスキルを用い、スピリチュアルペインについて考えアセスメントし、スピリチュアルケアを行うことについて学ぶことが出来ました。まだまだですが、日々の中で自分自身のスキルを磨き、これから出会い看護する患者様とご家族へ返していけるように努めていきたいと思います。



## 「女性リーダーのためのブラッシュアップセミナー」に参加して

4 階西病棟 三浦

リーダーシップとは、特定の地位や肩書きに関係なく、コミュニケーションプロセスを通して目標実現に向けられた対人間における“肯定的な影響力”を指す。今回の研修を通じて相手(後輩)に対して「あなたを大事にしている、尊敬している、メンバーの一員として認めている」等を伝える行為や言葉そのものが大切であることを学びました。相手の行動を認めたくて相手を受け止められるように伝えることを意識して、自分自身も学習する姿勢を怠らず、知識を増やし考えて行動をすることができるよう、今後も看護に励んでいきたいと思います。



## 「専門職としての第一歩

### ～看護師としての自覚と責任ある行動について考える～」を受講して

3 階西病棟 八丸

今年就職した他施設・病院の新人看護師さんたちとグループワークを行い、悩んでいるのは、自分だけではないということを知り、少しずつでも目標を持って頑張っていこうという気持ちを持つことができました。また、患者の言葉や態度から患者の本当の思いを知ること、その思いに応えていくことが看護師としてとても大切なことだと感じました。「気付き」のある看護師を目指して患者との関わりを持っていきたいと思っています。

パーキンソン病の内服コントロールがうまくいかず、意識レベル低下により入院された患者さんの話です。入院直後は開眼もせず、会話もできませんでした。ご家族も心配しており面会時間中、付き添っていました。内服薬の調整が始まって意識レベルは改善せず、ご家族も一生懸命話かけたり、音楽をかけたりしていました。私も時間があれば患者さんの所に行き話をし、ご家族も交えて話をしていました。徐々にレベルの改善がみられ、はっきりと話が出来ようになりました。「昨日は休みだったんだね」と言われた日、私のことを覚えてくれていたんだと嬉しく思いました。ご家族が来院された時には必ず挨拶へ行き、夜間の状況などを話すようにしていました。笑顔での対応を心がけ、少しの変化も伝えるようにしました。「元気になってよかった。おうちに帰ろう」などの言葉も聞かれます。これからも患者さんとご家族に寄り添って少しでも不安が軽減でき、前向きな言葉が聞けるような関わりを心がけていきたいです。

## マイブーム

手術室 山下



私は、院内で結成したソフトボールチームに所属しています。結成して3年になり、部員は17名ですが「川内市B級の部優勝」を合言葉に毎週グラウンドで汗を流しています。

急性期病院での仕事とソフトボールの両立は難しく、少人数で練習する事も多いですが、それぞれが楽しんで身体を動かし、ストレスの発散をしています。

付き合いは、練習だけでなく飲み会や、職場での交流など様々です。チームメイトが病棟や職場にいて、気軽に話しが出来たり、意見交換ができるので、良い環境で仕事ができていると感じています。

家族もソフトボールの試合を楽しみにしており家族全員で応援にきてくれます。自分だけの趣味ではなく、家族の趣味になって嬉しく思います。

これからも、チームメンバーと家族ぐるみで交流をしていけるソフトボールチームがくれたらいいと思います。



## 研修のお知らせ



### I、看護必要度研修

看護師・准看護師は、必須研修となっています。

e-ラーニングでの事前学習を行い、研修に参加することをお勧めします。

10月11日(火)

11月24日(木)

時間 17:15～19:15



### II、学研e-ラーニング研修 再配信のお知らせ

(配信期間:H28年9/1～10/31)

視聴を予定していたのに受講できなかった、もう一度受講したいという方に朗報です。

#### ①中堅コース

項目①ファシリテーションスキル

～チーム医療における中堅看護師の役割～

②慢性呼吸不全のヘルスアセスメント

③エビデンスから読み解く慢性呼吸不全のマネジメント

④脳の画像から考える看護ケアの実践

#### ②管理職・チーム医療コース

項目①知っておきたい看護制度とその動向

②知ってみようストレスマネジメント

③新人、中堅、転職者の職場適応支援

④地域包括ケアを意識した患者支援とは

### III、学研e-ラーニング研修

接遇に関しての研修が新たに追加となり視聴できます。

院内全体研修コースを選択してください。

「患者・家族の心に届く接遇コミュニケーション」

## インターンシップ報告

H28年8月9日にインターンシップを行いました。3名の参加があり現在ローテーション研修中の新人看護師とローテーション研修経験者や出身校が同じ先輩看護師と一緒に昼食をしながら交流を図りました。アンケートの回答で就職を決める重視項目として、病院・看護部の理念や研修・教育体制、子育て支援対策、勤務時間・夜勤形態、人間関係などであり、また、実際に希望部署での看護体験をしたことで職場環境の雰囲気を感じることができよかったとのことでした。ローテーション研修やPNS看護方式に関心を示していました。参加者全員が地元出身者で地域への貢献を考えているとのことでした。一緒に働ける縁があるといいですね。ご協力していただいた各病棟の皆さんありがとうございました。



## 編集後記



私の最近の楽しみの一つは、毎月送られてくる医療雑誌の案内の中のコラム欄の記事です。今回は、『「依存」した人こそが「自立」できる』とあり、目から鱗でした。人は誰だって誰かに依存しながら生きている。いろんな人と関係をもち、いろんな依存をすることによって、自分の仕事を仕上げられるようになる。それが自立。とすれば、自立はたくさんの依存によって出来上がる。新人看護師も同じで、プリセプターだけではなく、いろんな人に依存して助けてもらいながら自立していく。うまく依存できずに誰かに助けてもらえない人は「自立」ではなく「孤立」。私たちは、新人看護師に依存をたくさん経験させてから「自立」させたいですね。

(小牧)

